

1

高次脳機能障害とは



高次脳機能障害とは



脳には、息をする・食べる・寝るなどの指令を出す動物全般に共通する機能と、思い出す・考える・伝えるなど人間で特に発達している機能があります。

前者は、生命維持に関わる基本的なはたらきです。後者は、生死に直接関わらなくても**人として社会で生きていくために重要なはたらきで、高次脳機能**と呼ばれています。

頭のけがや脳の病気によって、高次脳機能に関わる部分が傷ついたとき、**記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害**などの症状が表れることがあります。これらの症状により、「**日常生活または社会生活に制約がある状態**」が高次脳機能障害です。

原因や損傷の状況によって、ひとりひとり症状の表れ方が異なるのは、この障害の特徴です。高次脳機能障害は、麻痺や歩行障害のように外から見える障害ではないため、「以前と何か変わった」と思いながら何年も経過し、専門の医療機関を訪れて、ようやく診断される方も少なくありません。



高次脳機能障害で本人や周囲の人が困ること



【注意障害】 注意・集中が続かない。

環境からの刺激や、自分の考え事に対して、適切に意識を向け、維持する能力を指します。特殊なものとして、視空間注意があり、右の脳の損傷では向かって左側の空間への注意が落ちることが知られています。言われたことに注意が向けられていないと、言われたそばから忘れてしまう（いわゆる「うわの空」）ということが生じます。言われてすぐ忘れる、というような短期記憶の障害は、言葉とは矛盾しますが、注意力の障害に基づくことがほとんどです。一度に複数の事柄に気を配ることが難しくなります。

● 作業をするが、ミスが多い。	➤ 作業後のチェック方法を話し合ってみましょう。
● いくつも質問されると、内容を理解するのに時間がかかって混乱する。	➤ 質問は一度に一つにしてもらいましょう。
● すぐ疲れてしまう。漫画を読んでも数ページで飽きる。	➤ こまめに休憩しましょう。漫画は4コマや短いものから読むとよいでしょう。
● じっとしていられない。人の出入りや音などの刺激が多すぎて気が散る。	➤ できるだけ刺激を減らして、落ち着ける環境を作りましょう。



【記憶障害】 以前のことを思い出せない。新たなことを覚えられない。

ここでいう記憶とは、新しいことを記録し、長い時間覚えておく能力を指します。高次脳機能障害の患者さんでは、認知症の患者さんと異なり、脳損傷が生じる前に記憶したことを思い出せなくなることはまれです。一方で、発症後に新しく何かを覚えて仕事に生かす、といったことは難しくなります。

● 外出しようとするたびに、家の鍵が見つからない。	➤ 玄関の箱やフックにかけるなど、保管場所を決めましょう。
● 昨日約束したことについて聞かれても、まったく思い出せない。	➤ スマホ、カレンダー、手帳など、補う方法を見つけましょう。
● 最近買い換えた家電の操作方法が何回聞いても覚えられない。	➤ 操作方法の図や写真を家電の近くの見やすいところに貼りましょう。
● 新しい上司に替わり、新しい仕事が増えすぎて対応できない。	➤ 仕事の量と内容を相談しましょう。上司に言いにくいときは、理解のある人に相談してみましょう。



【遂行機能障害】

要領や段取りが上手くとれない。融通がきかない。

遂行機能は非常に高度な能力で、注意や記憶が正常で初めて正しく機能します。何かの目的を達成するために、適切に計画をたて、それをうまく実行する能力全般を指します。特に、「習慣的ではない（新奇な）状況下で、習慣的ではない行動をする」際には、状況に応じた臨機応変な判断が必要となりますが、脳損傷の患者さんでは、この「状況に応じて臨機応変に判断する」ことが非常に難しくなります。

● 庭の水まきを日課にしているが、雨が降っても水をまいている。	➤ 危険でなければ、無理に止めなくてもよいですが、「今日は空が代わりに水をまいてくれた」と言ってみるのも一つの方法です。
● 友人との待ち合わせ場所に行く途中で電車が止まったが、何も連絡せずに帰宅したので、友人はしばらく待っていた。	➤ 親しい人には事情を説明して、連絡してもらうようにしましょう。
● 浴室に入っても、身体を洗わずに座ったままじっとしている。	➤ 声をかけたり、最初の動作を補助したりすることで始めるきっかけになります。
● 集合時間になっても、まだ家にいる。	➤ 準備の声をかけたり、一部手伝ったりして、出発時間に送り出すか、一緒に出るようにしましょう。



【社会的行動障害】

感情のコントロールが難しくなり、対人関係に支障をきたす。意欲が低下したり、ひとつのことに固執したりする。

様々な能力の障害や、脳損傷に伴って生じる環境の変化（例えば失職や離婚）による社会生活上の問題行動すべてをここに分類します。ただ、適切な対策を講じるためには、それが①記憶や注意などのほかの認知機能の障害から二次的に生じているのか、②会社を解雇されたというような環境因子から二次的に生じているのか、③脳損傷の直接の後遺症として生じているのか（易怒性や病的泣き笑いなど）の3つに分けて考えるのが役に立ちます。

● ギャンブルにお金を使い込み、家族がお金をくれないと暴れる。	➤ ギャンブルに限らず、不安や他の問題の回避のために何かに依存することがあります。代替方法を探してみましょう。依存の程度によっては専門的な治療が必要です。
● 人混みで肩がぶつかり、謝った相手を大声で怒鳴る。	➤ できるだけ人混みは避けましょう。またイライラの原因になる疲れを取りましょう。
● 一日に何度も、同じ友人に相談の電話をかける。	➤ 相手のことを考える余裕がない状況です。友人に事情を説明して、回数や時間を決めてもらいましょう。
● 異性を見ると身体を触ろうとし、性的な話がとまらない。	➤ いけないことと知って抑えられない状況です。周囲は淡々と、反応を控えましょう。



【社会的行動障害】(続き)

感情のコントロールが難しくなり、対人関係に支障をきたす。
意欲が低下したり、ひとつのことに固執したりする。

● 急に泣いたり、怒ったり、笑ったりする。	➤ 感情を抑えられない状況です。時間を決めて、気分転換できるものを探しましょう。
● ちょっとしたことでも動揺する。	➤ 動揺の背景には不安や自信の喪失があります。困ったときに一緒に解決したり、他の人と共有したりすることで、自信を取り戻していきましょう。
● 興奮すると気持ちを静めるのに時間がかかる。	➤ 興奮の原因をできるだけ減らしましょう。落ち着くものや場所、気分転換できるものを探しましょう。
● 周囲に無関心になり、何もやる気が起きない。	➤ 時間を決めて、自動的にやる環境に身を置いてみましょう。声をかけたり、最初の動作を補助したりすることで始めるきっかけになることがあります。



高次脳機能障害による困りごとには、「これは記憶障害」「これは注意障害」と分けられないものもあります。

例えば、他のことに気が散ったりすぐ飽きてしまったりするために、心に留めたり必要なときにそれを思い出したりすることが難しい場合、記憶障害の背景に注意障害が隠れているともいえます。

社会的行動障害の一つに、易怒（すぐ怒る）という症状があります。怒りにも「同じ失敗を繰り返してしまい（記憶障害）、それを指摘されたから」「周囲がうるさくて気が散るから（注意障害）」「不測の事態が起き、どうしたらいいのかわからないから（遂行機能障害）」など、いろいろな原因があります。多くの場合、怒りの背景には、今までできていたことができないもどかしさ、不安や混乱があります。

支援者として大事なことは、「本人に何が起きて、それをどのように感じているのか、何に困っているのか」、よく話を聞き、背景を察知することです。

高次脳機能障害は病院や施設でも見過ごされる場合があります。家族や身近な人が当事者との会話や行動から高次脳機能障害を発見することで、より適切な支援につながります。